

I. 課題名

本に囲まれて暮らす住戸のインテリア

II. 設計条件

1. 計画目的

依頼者は、美術史を専門とする大学教授である夫と、専業主婦である妻の60歳の夫婦である。夫が定年退職することを機に大学の研究室にあった大量の本(5,000冊)を置くために、古いビルの一室を購入し、新たな生活拠点とするために全面的に改修することとした。いたる所で読書を楽しめる住戸のインテリアを計画する。

2. 周辺状況及び建築物の概要(図-1~3)

- (1) 周辺状況
 ・敷地は、都市近郊の駅から近い住宅や店舗等が混在する地区の一角にある。
- (2) 建築物の概要
 ・構造、階数 —— 鉄筋コンクリート造、4階建て(1、2階は店舗、3、4階は住戸)

3. 設計対象範囲(図-1~3)

- (1) 設計対象範囲は、4階建ての4階部分(床面積約165m²)である。
- (2) 夫婦の要望は、次のとおりであり、要望に沿ってインテリア設計等を行うものとする。

○本の扱いについて

- ・本を、5,000冊収容できる本棚を設ける。
 (1本当たりW900mm×D150~300mm×H2,000mmを標準とする34本分を確保すれば、W、D、Hは適宜に計画してもよい。)
- ・本棚の配置は一箇所にまとめても、分散してもよい。
- ・書庫(本を所蔵するための部屋)は、設けないものとする。

○各スペースについて

- ・団らんや来客をもてなすための8名程度がくつろげるスペース
- ・通常は2名であるが、ホームパーティー時に8名が食事できるスペース
- ・機能的でゆとりのあるキッチン
- ・夫婦の就寝スペース(クローゼットの幅は、夫婦それぞれ2m程度とする。)
- ・夫の書斎(読書や執筆をする部屋またはスペース)
- ・専用の洗面・トイレをもつツインベッドのあるゲストルーム
- ・ゆったりとした浴室、洗面スペース(洗濯機を置く。)
- ・トイレ
- ・収納 —— 適宜
- ・各スペースの間仕切りは、本棚を使用してもよい。

- (3) 床、壁等の設計条件は、下表のとおりとする。

部 位	特 記 事 項
床	<ul style="list-style-type: none"> ・4階基準FLは、スラブ面から400mmの位置である。床レベルについては、設計対象範囲内で適宜設定できる。ただし、玄関まわりの室内の床レベルについては、スラブ面から250mm以上とする。 ・仕上材は自由に設定できるものとする。
柱及び梁	<ul style="list-style-type: none"> ・解体・撤去はできない。その位置は、図-1~3に示すとおりである。
壁	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁 —— 解体・撤去はできない。その位置は、図-1~3に示すとおりである。
	<ul style="list-style-type: none"> ・間仕切壁 —— 適宜設けることができる。
天井	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜設けることができる。

- (4) 空調・換気設備、給排水衛生設備及び電気設備は、自由に設定できるものとする。

III. 要求図書

- (1) 設計製図答案用紙〔1〕、〔2〕の所定の位置に、下表の要求図書を完成させる。

要求図書	特 記 事 項
平面図兼家具配置図(縮尺1/50)	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な寸法を記入する。 ・本棚には高さ寸法を記入する。 ・スペース名又は室名を記入する。 ・家具、器具等の配置を記入する。 ・床、壁、天井の仕上げを記入する。 ・天井高及び床レベルを記入する。(4階基準FLを±0とする。)
透視図	<ul style="list-style-type: none"> ・設計主旨をよく表している部分を描く。 ・家具と人物も描く。 ・大きさは、W300mm以上、H200mm以上とする。 ・彩色する。
家具のスケッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・書斎のデスクまわり(椅子も含む)を描く。 ・主要な寸法及び仕上げを記入する。
設計主旨	<ul style="list-style-type: none"> ・計画上工夫した点を説明する。

- (2) 鉛筆、色鉛筆、製図ペン、マーカーのいずれを用いてもよい。
- (3) 図面は、フリーハンドでもよい。
- (4) 寸法単位は、mmとする。

図-1 平面図 縮尺1/100 (下書用)

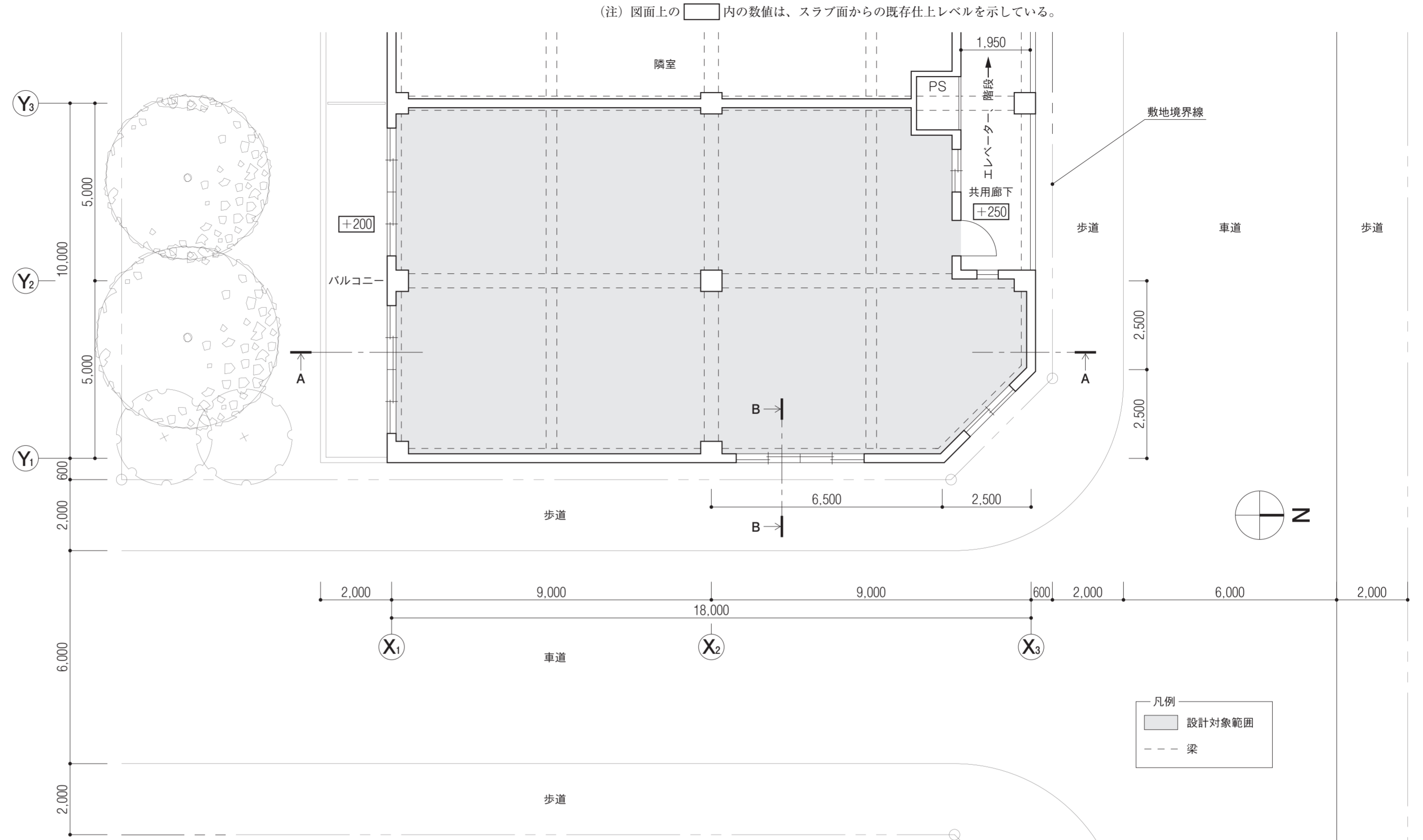


図-2 A-A断面図 縮尺1/100

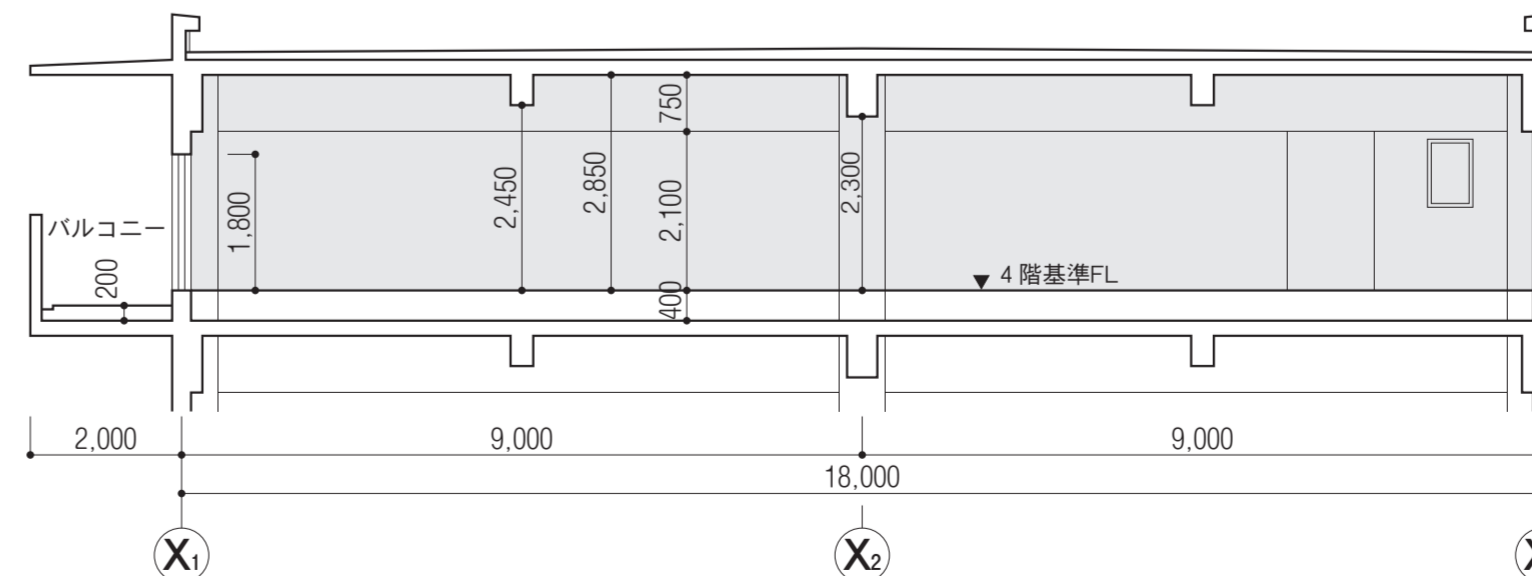


図-3 B-B断面図 縮尺1/100

